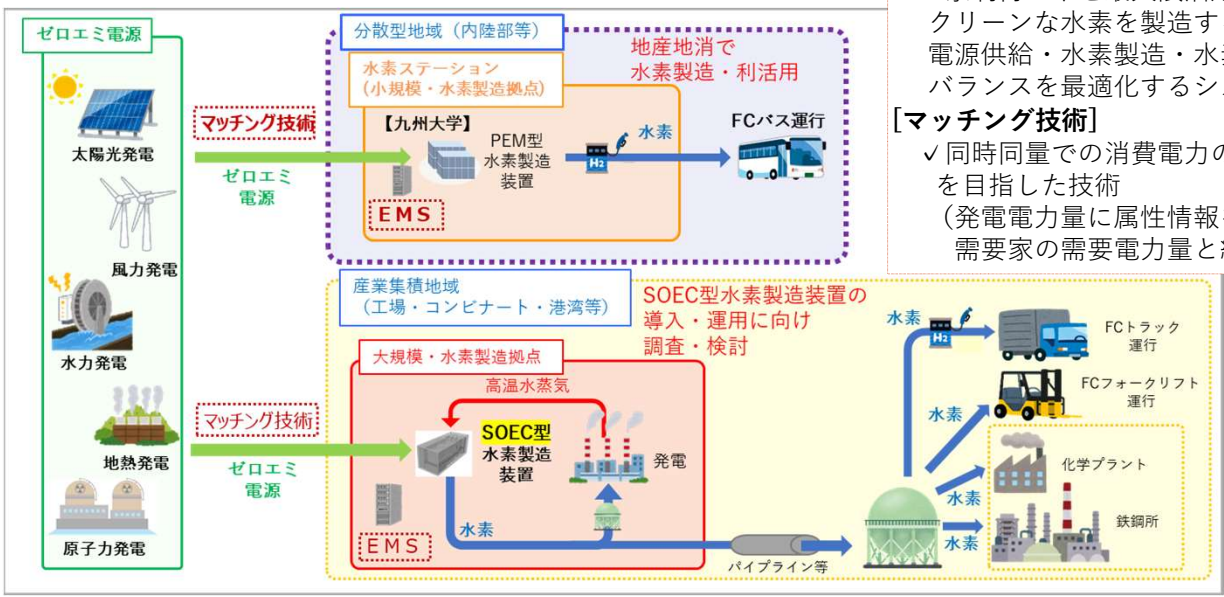


■ 余剰再エネ等ゼロエミ電源を有効活用する、水素社会地域モデルの構築に向けた技術開発を、分散型地域、産業集積地域の2か所で実施

- ✓内陸部等の分散型地域において、地産地消で水素を製造、利活用する水素社会地域モデルの構築を目的に、九州大学の水素ステーションを活用し、余剰再エネや原子力発電など、九州の豊富なゼロエミ電源を活用したカーボンフリー水素の製造に向け、EMSやマッチング技術の開発を実施中
- ✓工場・コンビナート・港湾等の産業集積地域における将来の大規模な水素需要に応える高効率なSOEC（固体酸化物形電解セル）型水素製造装置の火力発電所への導入や運用に向け、調査・検討を並行して実施

【事業概要】



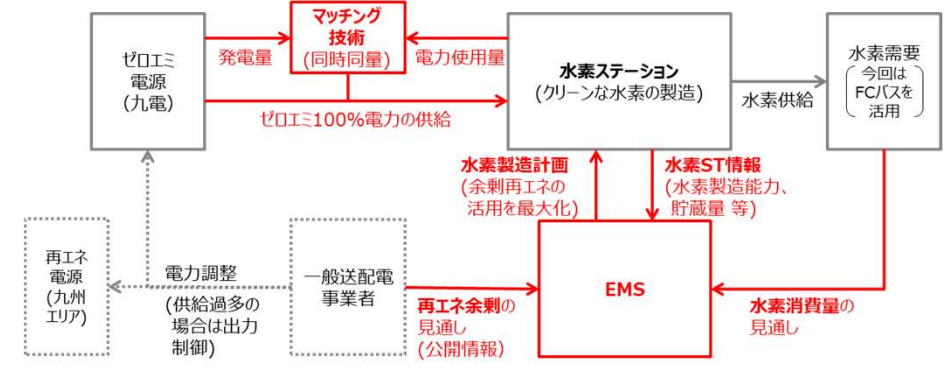
[EMS]
✓余剰再エネを最大限活用して
クリーンな水素を製造するよう
電源供給・水素製造・水素消費の
バランスを最適化するシステム

[マッチング技術]
✓同時同量での消費電力の電源特定
を目指した技術
(発電電力量に属性情報を付与し、
需要家の需要電力量と紐づけ)

【スケジュール】

	2022年度	2023年度	2024年度
分散型地域 モデル	九大水素ST水素製造・利活用		
	EMS・マッチング技術の 開発・製作		
産業集積地域 モデル	SOECによる水素製造 に向けたFS・実証		
共通	利活用モデルの拡大 方法検討		

【分散型地域モデルのコンセプト】



FCバス乗車人数：6,000人
(期間：2023.11.15～2024.3.31)